

# 産業建設委員会記録

令和4年7月21日(木)  
午前9時59分～11時06分  
全員協議会室

- 【委員】 川上委員長、田畑副委員長  
沖田委員、串崎委員、上野委員、布施委員、牛尾委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【執行部】
- 【事務局】 大下書記
- 

## 議題

- 1 【取組課題】 漁業関係者から聴き取りした問題点と課題について  
(委員間で協議)
- 2 【取組課題】 農林畜産関係の取組について (委員間で協議)
- 3 その他

【議事の経過】

[ 9時 59分 開議 ]

川上委員長

ただいまから産業建設委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。レジュメに沿って進める。

1. 【取組課題】 漁業関係者から聴き取りした問題点と課題について

川上委員長

先般皆から提出いただいた、漁業関係者本人から聞き取った問題点と課題について個別にまとめている。皆の意見をすり合わせ、これから漁業を始めたい人にとって何が必要で何が問題なのか、必要な支援は何かなどの課題を絞り込みたい。

1番の方は年齢60歳、退職後に父親の指導を受けて1本釣りを営んでおられる。この方についての皆の意見をまとめていきたい。魚価がなかなか漁法に反映しなかった、魚価に付加価値をつけたい、漁獲量が減る上に魚価も低い、漁業で生活するのは困難だったとの意見があった。この中で特に重要なのはどの部分か。

沖田委員

今回話を聞いたお三方は全て沿岸漁業に従事されている。共通課題は、漁業では生計が成り立たないことに尽きる。よって漁業者、特に沿岸漁業者の収入確保が1番の課題と認識している。

川上委員長

私どもはそれを後押しする何かを考えることも必要だと思う。ほかに意見は。

布施委員

船の購入・維持がままならず、船がなくなればやめざるを得ないという話を聞く。船がどこで買ってどこで修理するかといった情報をしっかり与えてあげるのが大事ではないかと思った。

1番の方の意見は、1本釣りとは大型船で魚自体の価値が同じで、1本釣りの付加価値が値段に反映されてないことが大きかったと思う。手間暇かけたものはブランド化する、その人が獲ったものというブランド価値をつけるべき。それによって魚価が少しは上がるのでは。

川上委員長

市場は漁法による区別がなく、価格の差がないと言われていた。ほかにあるか。

串崎委員

興味を示している方への支援策の充実が必要だと感じた。

川上委員長

興味を持っている方を仲間にする方策も必要だと言われたのだろう。

上野委員

Iターンで漁業をやりたい、自分たちでいろいろな工夫をして販売したいという人が新聞に出ていた。ネットでも見かけた。仲間づくりが一番大事だと思った。

川上委員長

仲間づくりに関しては最後にもう一度当たらなければならないと思う。

田畑副委員長

1番は魚価が安定しない、そして漁法が違っても同じ土俵に並べられる。JFがそのようにしているのだろうが、1本釣りで丁寧に獲られる魚は別扱いするように考えていかないと魚価が上がらない。もうからないところに人は来ないので、考えてあげないといけない。

川上委員長

当日はおられなかったが、牛尾委員はこれを見て思うところがあるか。

牛尾委員

1番の方は、後継者とすれば理想的である。こういう人がやっていけないのが漁業の現状なのだろう。ここ10年以上、JFは造船所を縮小していて修理の際には遠くへ持っていかないといけないのが1番のネックだと言われている。本来JFがやらねばならない。船の修理ができなければ漁船漁業などできない。

もう一つ、底びきの魚と1本釣りの魚が同じように扱われるとのことだが、底びきは活魚で持ち帰れるようにするなど、商品価値を上げるためにすごく努力している。だから底びきと1本釣りの品質が違うという認識をいつまでも持っているのが間違い。また、消費地の魚価が安いからなかなか値段が出にくい。県東部のJFでは船一隻売りをやる。どんな雑魚でも売る。すると平均的な単価が上がる。今朝の新聞に出ていた松江の子らは、先を見ているからそういうことをやっている。お金にならない魚をどう加工したら売れるか。四国では朝獲れ一番と称していろいろな魚をパッケージして消費者に送るなどの努力をしている。

モデルになるような人が漁業をやっていくのがつらいと話す要因は、船の修理では。去年、新船をつくるのに市が800万円くらい補助金を出したケースがある。漁業によってはそのようなことをしているのだから、まず漁船修理、メンテナンスをどうするか確立しておくべき。ただ漁業に参入すればよいわけではない。JFに強い申し入れするべきでは。市も一定以上の支援をしているのだから、造船所くらい何とかしろと、言う必要がある。

川上委員長

魚価確保のためにどうすべきか。底びきがしっかり考えているなら1本釣りも何かするべきだろう。となると船の購入やメンテナンスについて考えていかないといけない。

布施委員

牛尾委員に聞きたい。かつて瀬戸ヶ島や原井にあった造船所は、どういう経過で辞めたかご存じか。

牛尾委員

漁協が合併したのは平成18年だったか。新体制になっての経営方針で造船所がなくなった。若い職員は採用しない。そういう流れの中、現場に人がいない。だから現体制には大きな問題がある。これだけ基幹産業として支援している市として、JFに対して言うべきことは言わないと漁業が成り立たない。JFが一番背負わねばならないところから逃げているように思う。

布施委員

JFがやるべきことをやってなかった。造船所も時代経過から廃業した。もし再開するとすれば国・県・JFなど全ての力を結集しなければならない。特三漁港の浜田市として、後押しはできるだろうか。

牛尾委員

平成20年に特三漁港の市長・議長・会頭を集めた三団体連絡協議会をつくり、毎年会合がある。浜田は一番ランクが下だが、水揚げ量にかかわらず特三漁港は日本の水産食料確保のために必要なので、きちんと順番にやっていこうということで、今その順番が浜田に来ている。国がJFの機能維持のために補助ができ

沖田委員

るかどうかはわからない。

温泉津や益田に小さい造船所がある。例えばそういうところを支援するとか。ゼロからつくるのではなく、既存のものに少し支援するのが当面はやりやすいのではと思っている。

川上委員長

週末に船の修理をする会社の社長と話す機会があった。やはり言われるのは、とにかく若い子が続かない。地域おこし協力隊でも何でもよいから、エンジニアを養成する仕組みができないかと。どこかから人を引き抜いてくるのは無理で、全国的に船のエンジンを触れる機関工がいないので、一から育てていくしかない。

牛尾委員

技術者を補完する方法を考えていただきたいと。牛尾委員は何かご存じか。

今までやっていた店も後継者が育ってない。JFの最後の造船職員は再雇用し続けていて新採用しないまま無くなってしまった。結局、JFが人づくりをしていない。そもそも人材育成はそれぞれの団体がある程度やるのが普通で、行政はそこに支援する形で今までの。しかしJAは金貸しに走ってしまい農業者から搾取するばかりになった。

川上委員長

江津工業はそこそこ人材育成をしているから、あの団地へ企業が来る。江津工業の卒業生をターゲットにして進出できるから。益田もそういう流れがある。ここで話がある程度まとまれば、水産高校と1回意見交換をしてもよいのでは。JFと話すのも重要だが、水産高校と話をしたほうが何かヒントがあるかも。

牛尾委員

2、3点に大きくまとめてしまいたいのだがよろしいか。一つ目は魚価の件だと思うが、魚価については工夫することを求めたほうがよいのか。牛尾委員が言われたように、底びきは自分らで工夫しながらやっている。しかし1本釣りの方は船がまだ古いから、どうしても魚を生かしておくのは難しいと思う。それについて牛尾委員はどう思うか。

僕が現職でやっていた20代のころ、大阪の魚市で生き締めの方法を教わって上司が教える。ヒラメを生き締めすると48時間鮮度が保って市場に出しても十分対応できる。しかし日本全国そういう工夫はすでにやっている。生き締めはもう標準的にやっているから、それをしたからといって魚価に反映しない。60歳を過ぎて後を継いだ人だから、その辺の認識が足りないのでは。

川上委員長

例えばこの人が生きる道は、自分が釣った魚をふるさと納税の事業者として自分で値段をつけて載せる。1本釣り業者はそういう方法しか生き残れないと思う。あるいはネットで自分でペイするような金額をつけて売る。1本釣りについてはマーケットに値段を委ねるようなやり方はもう今後無理ではと思う。

新船や修理についてはどう考えるか。JFのこれまでの動きを見る限り、なかなか手当てがされていないためこれをしっかりやってもらうことが必要だろうと。修理に当たっては、不足している技術者を育成するための手当てが必要ではないかと。工業高校、水産高校等の若者の意見を再度吸い上げることも必要かと思う。

布施委員

今のまとめでよいと思う。修理も個人で頼むではなく窓口を確保していただいて、益田や温泉津の修理屋に頼むなど、きちんとした連携が必要である。

もう一つ、今は水産高校を卒業しても漁業に携わるとは限らない。地元就職などを交えつつ意見交換したら、我々が考えている以上に子どもたちは水産業に対してどう思っているかわかるのでは。

それから1番の方についての補足だが、この方自身は「自分はよいほうだが、興味を持つ人に、好きでやるならよいが魚価が上がらないと話す」と言われていた。

牛尾委員

1番の方は1本釣りもするし、もぐりもするのか。磯見漁はかつて盛んだったが、その最適地だった瀬戸ヶ島を埋め立てて以降はほとんどいない。

昔と違い、今はどこで何が揚がって相場が幾らかわかる。よほど盆や正月前で魚が要るとき以外は、魚価がべらぼうに上がることはない。生産者にとっては市場価格と競りの価格に差があるのは納得いかないだろうが、コストがかかる分安く買わないといけない。だから自家出荷する、自分でふるさと納税の業者になるなど努力することを1本釣りの人には言っていないと難しい。しかし皆がそれをやり始めると仲買が不要になるので、一概に議論するのは難しい。やはり自家出荷の方法を教えたほうがよいと思う。

川上委員長

魚価の安定という部分については、やはり自分たちで直接販売するとか、ふるさと納税の返礼品に使うとかいう方法を再度検討する必要があるのではないか。また、こういう方法があると、情報を流す必要がある。

船の修理については先ほどから出ていた。JFの働きを再度見直していただきたい。

三つ目として、これからの若手のために水産高校との意見交換が必要で、それを基にして再度考えてもよいのでは、ということだと思う。

またまとめて皆にご披露する。

沖田委員

魚価の話で牛尾委員が未利用魚、いわゆる市場流通に乗らない魚も、全国平均で2割とも言われる。魚価向上に未利用魚というキーワードも加えていただきたい。

川上委員長

未利用魚に関しては先般NHKでも報道されていて、注目されている。それも含めて進めていきたい。

次に2番目の方、Iターン者で現在定置網漁をしながら自営業を目指す方である。家族連れでIターンしたが生活がなかなか難しいというのが最初だと思う。皆から意見を求める。

布施委員

この方の報道を見た。漁業として自分が研修されている姿を見て、努力は認めるが船主は「だいぶ時間がかかる」と言われた。家族は支えると言われたが、主人の稼ぎだけでは無理だという現実も放送された。好きでやるのはよいが生活ができるかどうかは

非常に難しい。もしやるなら、どちらに力点を置くかでスタイルが変わる。自分で獲った魚介で鉄板焼き屋をやりたいという夢はよいが、魚が獲れなければ営業はできない。今漁業をやる方の問題点が浮き出た放送だった。半漁半Xを行政としても手助けする話し合いが必要になるのでは。

串崎委員

漁業者の仲間がいれば、生活はぎりぎりだけど考え方を前向きにできる。そういうネットワークづくりは大事ではないか。ほかにも孤独な方はおられるはずなので、声かけして家族ぐるみで付き合うような若手漁業者をつくれれば、長続きするのでは。

牛尾委員

Iターン者を何とか浜田市で守ってあげたい。半農半Xでいかに収入が確保できるか、ある程度行政も入ったの体制が必要だろう。特に収入面が大切である。

大体大敷にいる人は、親方は別だが底びきを上がって小遣い稼ぎに大敷に乗ろうかという人が今までは多かった。若い人に定置網を起業するだけの体力があれば別だが、大敷に乗ったからといって独り立ちできるような漁業研修にはならない。乗って給料をもらうならよいが、大敷網を起こさないかぎりは無理である。

例えば底びきでも、お金をためて新しい船を出す人はいるが、大敷で漁業研修を受けて何かしろという、入り口に問題があると思う。半農半Xではなく半官半民と僕は言ってきた。短時間雇用で毎日4時間は市役所が雇用し、後は農業なり漁業なり商業なり好きなことをせよと。そのようにして後継者を育てていく。やがて米作をする者がいなくなる。その補償として毎日午前中だけ雇用すると月20万円になる。残りで米をつくってもらうなど、将来的にはそうなるのではと。定置網で1本立ちするのは、経営者にならない限り無理だと思うので、この人をどうにかするのは難しい。もっと違う漁業について、例えば1本釣りならはえ縄を覚えて独り立ちはできるが、定置網は単純労働なので、正直どうにもならない。この人には違う道を歩ませないと、今のままでは何年やっても一緒だと思う。

川上委員長

漁業研修の方法について再検討する必要があるのではと。意見は意見として聞いておく。半漁半X、兼業公務員としてしっかりやれとなっているので、昔牛尾委員が言われたことが今生きていると思う。農業についてはすでにかなり広まっている。あとはどこまでやるかだけだと思う。漁業もそういう部分が生かしてくれば非常によい。この方については、やはり大敷では勉強は成り立たないのではないかと、漁業研修のやり方を見直す必要があると。

布施委員

Iターンで来た人たちが集まって話せるような場、ネットワークの構築をやる必要があるのでは。

家族で来られるのが一番安定なので、家族に対する手助けが必要だろうと思う。

川上委員長

こういう若者に漁業を守ってもらおう。将来的に陸上養殖を提案して従事していただくこともできるのではと思っている。

先日、チョウザメの陸上養殖には10年かかると聞いた。それ

牛尾委員

でも魅力を求めてやっている方がいる。陸上養殖にも目を向ける必要があるだろうし、いろいろなことを探していかなければならない。

僕は最低幾らから起業できるかという質問をしている。延期になったがぜひ行ってみたい。最低500万円あれば起業できるのか、1千万か、そういうことも行って見聞きし踏まえたうえで、漁業に興味を持つ若者に陸上養殖を勧める、それを支援する制度メニューをつくる。そういうことが必要では。

川上委員長

陸上養殖も必要なので市としてしっかり取り組んでいただくよう進めていけたらと思う。よろしいか。

それでは3番目の方。38歳。父親が組合員で漁船を持っていた。本人は4月に準組合員資格を取得され現在は飲食店経営をしているが、変更して漁業を営むことを検討していた。ネットワークが必要だと言われていた。この方について何か意見は。

布施委員

今やっている飲食業は2年でやめる、その後は考えてないとのこと。まだ自分の気持ちがいよいよ整理できていないのでは。この方が新しい店をどこで出すにしても、魚中心の店を出したい、六次産業化で自分が獲ったものを調理して提供する感じで考えているようだが、飲食業をするのにそちらがメインになると、自分で獲るよりは仕入れて出す感じになるのではと思った。この方にもどのような支援ができるか考えても、新しい店を出す際の支援策をしっかりと考えてあげることが大事ではないかと思った。

牛尾委員  
川上委員長  
牛尾委員

この人はどういう漁業をしているのか。

今はしていない。

組合員がいるからそこに入れない。その人が水揚げするとほかは落ちるのだから、組合員に阻まれてなかなか入れない。今は漁業権の都合もあるから、ぱっと来てさせてくれといっても、資源は限られているので参入できない事情がある。国府にはうまくいっているモデルがあるから、そういうところを見習ってやることはできないのか。

沖田委員

彼はまだ軸足が不安定という面はある。飲食店がある程度安定はしていたのだがコロナで完全に不安定になり、先が見えない。漁業の収入が不安定なのが後継者不足の一番の原因だと常々思っている。だから半官半民は理想的だと思いながら聞いていた。この手の話はなかなか結論が出ない。

川上委員長

軸足が定まらないのは、相談相手や相談場所等々が不足しているのではないかと考える。

沖田委員

ネットワークは大事だろう。ただ1点気になるのが、県の補助金を使っている。県から直に研修生に渡っているケースもあれば、経営者を経由しているケースもある。雇用形態の隔たりというリスクもある。これも一長一短である。根本的にはネットワークは必要である。

川上委員長

ネットワークや相談場所をつくる必要はあろうかと思う。ほかに意見がなければ、このあたりで置きたいが。

お三方についていろいろご意見をいただき、おおよその話がで

きた。共通項もあるので、一つの課題として取り扱い、その他については個別に提案するなど上げていきたい。今日出た意見をまとめて、なるべく早く皆にお見せしたい。それでよろしいか。  
 ( 「異議なし」という声あり )

**2.【取組課題】農林畜産関係の取組について**

川上委員長

鮮魚卸水産加工業を上げていた。この部分は少し置かせていただき、農業について少し進めたい。漁業についての意見をまとめる間に、できれば農業者について意見交換したいと思うがよろしいか。よろしければここにあるように、2団体または1者をピックアップしながら、なるべく早く意見交換の場をつくりたい。そのように私のほうで進めさせていただいてよいか。

布施委員

農業について前委員会の際に藤若農産へ行ったときに、いろいろな問題点が出ていた。あの問題点を再度整理して、それを皆の共通認識として意見交換をする際に踏まえたほうがよいと思うが、どうか。

川上委員長

藤若農産には一度伺って、いろいろと意見をいただいている。このことは皆に意見をお示ししながら意見交換会で使っていきたい。

牛尾委員

東大の鈴木宣弘教授によると、現行水稲は自給率100%あるとのことだが、2035年には水稲でさえ自給率14%まで落ちると。食料自給率、とくに主食の米などについては、僕らがもっと勉強しなければいけないのでは。そういう危機感を最近感じている。1年くらいかけて勉強させてほしい。どうだろう。

串崎委員

言われることは十分わかるし、食料自給率も減ってきている。その中でも米は余っているのだから、水稲からの脱却と言われている。牛尾委員が言われるのはどこに焦点を絞ってよいかわからないが、言われることはごもっともなので、もう少し小さめのところで何を対象にやるのかを示していただければよいと思う。例えば学校給食の関係とか、米は浜田市で食べるだけあるとか。もう少し絞ってから何とかなれば。

布施委員

水稲の部分もわかるが、旭では赤ナシやTCトマトなど、いろいろな果樹がある。天候に左右される部分も大きいのが浜田の顔と言われている部分もある。旭のナシ、三隅の西条柿、金城のTCトマト、それらの方々との意見交換会もできれば一番よいのだが。

川上委員長

非常によいと思う。次回は農業をメインにさせていただき、2団体ももちろんだがその他として旭のナシ、三隅の柿、金城のTCトマトについても1度打診したい。その上でどの形でやるか皆に提示する。それでよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

最初は林業も畜産業もと思ったが、どうも、農業だけでやらないと難しいかと思うので、次の段階では農業を中心にやっていきたい。9月定例会議の前にやるのか。いつごろがよいか。9月定例会議が始まる前に1回できるかどうか、確認してみる。それで進



められるようならそれで進ませてもらう。日程調整ができれば事務局から皆にお知らせする。

### 3. その他

川上委員長  
布施委員

何かあるか。

19日から木更津と新潟へ視察に行く予定だったが、コロナの増加により今回は延期とさせていただいた。また落ち着いたところで委員会としてぜひ視察に行きたいと思っている。改めての日程は事務局と相談して提案させていただくので、どうぞよろしく願います。

川上委員長

今回は中止となったが、またしっかりお願いしたい。ほかに。  
( 「なし」という声あり )

では次回開催日程の調整をしたい。8月5日までには私から提示できると思う。ただし次回意見交換会はまだ無理かと思うが、今日の報告程度はできると思う。8月5日10時から産業建設委員会となっている。よろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

以上で産業建設委員会を終了する。

[ 11時 06分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 川上 幾雄